幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

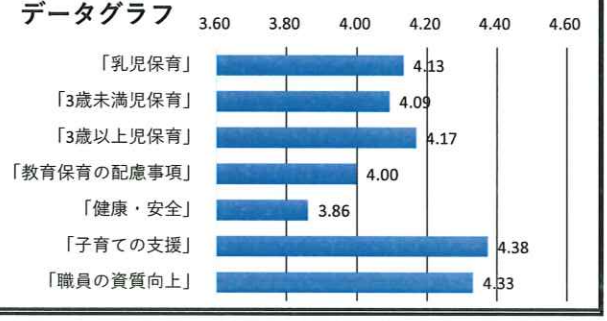
作成日　令和8年3月16日

法人名	園　名
学校法人吾田学園	幼保連携型認定こども園　あがた幼稚園

全体平均　4.11

第2章第2節 乳児期の園児の保育	子どもが身近な環境に興味や関心をもち、「見てみたい」「触れてみたい」と感じられるよう、五感を刺激する玩具や素材を整えている。また、一人一人との関わりを大切にし、愛情を込めた言葉掛けや丁寧な仕草を心掛けている。今後は、子どもの発する声や表情をより肯定的に受け止め、安心感や自己肯定感につながる関わりを深めていきたい。子どもの成長や優しい姿を保護者と共有し、愛されている実感をもてる保育を大切にしていきたい。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	子ども一人一人の思いや姿を丁寧に受け止め、安心して園生活を送れるよう温かな雰囲気づくりに努めている。日々の関わりの中で、子どもの自己表現や主体的な遊びを大切にし、自然や季節の変化を感じられる環境づくりを進めてきた。今後も、子どもの気持ちに寄り添った言葉掛けや援助を心掛け、信頼関係を深めながら、一人一人が自分らしく過ごせる保育を実践していきたい。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	園児は、室内や園庭、菜園、冒険の森など多様な環境の中で興味に応じた遊びを展開し、体を動かす心地よさや自然との関わりを楽しんでいる。また、園庭等での食事や会話を通して、保育者や友達と過ごす楽しさを感じている。一方で、生活の流れは理解しているものの、行動の意味や必要性の理解には差があり、自ら考えて行動する力の育成が求められる。保育者は自己選択・自己決定を尊重した関わりを行っているが、試行錯誤する時間の確保には課題があり、活動の見直しが必要である。今後は、個々の特性に応じた環境構成や小学校との接続を踏まえた指導に配慮し、信頼関係を基盤に豊かな感性と表現力を育んでいきたい。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	衛生面や安全面に配慮しながら、家庭的で温かな雰囲気の中、園児が安心して過ごせる環境づくりに努めた。保護者との会話を大切にし、家庭での様子や思いを受け止めながら信頼関係の構築に取り組んだ。また、園児一人ひとりの表情や仕草、発達の違いを丁寧に捉え、気持ちに寄り添った関わりを心掛けた。今後は、栄養士や看護師との連携をさらに深め、専門性を生かした保育の充実に努めたい。
第3章 健康及び安全	保育者は、衛生管理や安全対策を徹底するとともに、園児一人ひとりの体調や機嫌、食欲などの小さな変化にも注意を払い、安心して生活できる環境づくりに努めている。気になる様子が見られた際には看護師と連携し、適切な対応を行うほか、誤飲や事故防止に配慮した環境構成や、戸外遊びを積極的に取り入れた健康づくりを実践している。また、保護者との日々の情報共有を大切にし、家庭と連携した健康管理に努めている。今後は、栄養士や看護師など専門職との連携をさらに深め、それぞれの専門性を生かした取組や情報発信を充実させ、安全で安心な保育環境のさらなる向上を目指していきたい。
第4章 子育ての支援	保育者は、連絡帳や日々の対話、ICTやドキュメンテーションを活用し、子どもの成長を分かりやすく伝え、保護者との信頼関係の構築に努めている。送迎時や園庭開放などを通して保護者同士の交流や園への理解も深まっている。一時預かりや延長保育、特別な配慮を必要とする子どもへの支援にも丁寧に対応している。今後も家庭と園が連携し、地域とのつながりを生かした子育て支援の充実を図っていきたい。
第5章 職員の資質向上	職員の専門性向上を図るため、計画的に質の高い研修へ参加できるよう環境を整えるとともに、研修で得た知識や実践を園内で共有し、日々の保育に生かせるよう努めている。少人数で協議できる場を設け、学びを深める体制づくりにも取り組んでいる。一方で、ローテーション勤務等により、職員同士が十分に保育を振り返り、意見交換を行う時間の確保が課題となっている。今後は、外部研修への参加機会をさらに充実させるとともに、研修成果を共有し、互いに学び合い高め合える組織づくりを推進し、保育の質の向上につなげていきたい。
総合	乳児保育から幼児教育・保育まで、一人ひとりの思いや発達に寄り添い、安心して過ごせる環境づくりや主体性を育む保育が実践されている。保護者との信頼関係の構築やICTを活用した情報共有、子育て支援、職員研修にも積極的に取り組み、全体として高い評価となった。一方で、子どもが自ら考え試行錯誤する時間の確保や、行動の意味を理解し主体的に行動する力を育む支援、職員同士が保育を振り返り学び合う時間の確保には改善の余地が見られる。今後は、看護師や栄養士など専門職との連携をさらに深めるとともに、保育環境や保育内容を工夫し、子どもの豊かな育ちと保育の質の一層の向上を目指していきたい。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.13
「3歳未満児保育」	32	4.09
「3歳以上児保育」	53	4.17
「教育保育の配慮事項」	16	4.00
「健康・安全」	29	3.86
「子育ての支援」	16	4.38
「職員の資質向上」	9	4.33
計	170	4.11

データグラフ